

担い手農家の経営革新に資する稲作技術カタログの概要

ポイント

- 日本再興戦略(平成25年6月)において、今後10年間で、担い手の米の生産コストを現状全国平均(23年産米16,000円/60kg)比で4割低い水準とすることを目標としたところ。
- 担い手農家の農地集積・規模拡大に対応した省力栽培技術等の導入を進める一助とするため、「担い手農家の経営革新(低コスト化・高収益化)に資する稲作技術カタログ」を作成し、情報提供を行っているところ。

カタログ掲載技術の例

栽培技術

労働費・資材費の低減

- **流し込み施肥**
 - ・ 肥料を水口から灌漑水とともに流し込む省力的な追肥法(追肥作業時間▲7割)
- **育苗箱全量施肥**
 - ・ 緩効性の窒素肥料を育苗箱に施用し、本田への基肥や追肥を省略(肥料費▲2割)
- **疎植栽培**
 - ・ 1坪当たりの移植株数を減らし、苗箱等の資材費を3~4割低減
- **湛水直播栽培**
 - ・ 酸素発生剤又は鉄をコーティングした種もみを播種することで育苗・田植えを省略(労働時間▲2~3割)
- **不耕起V溝直播栽培**
 - ・ 乾田状態で播種するため、作業速度を向上(労働時間▲3~4割)
 - ・ 耐倒伏性や鳥害防止にも優れる

品種

収量増・販路拡大

- **外食・中食向きの良食味・多収品種「あきだわら」**
 - ・ コシヒカリに近い食味で1~3割多収
- **米菓向きの多収品種「もちだわら」**
 - ・ あられ等の米菓加工適性が高く、3割多収

作期分散

- **晩植でも多収な品種「ほしじるし」**
 - ・ 早生品種との組み合わせや稲麦二毛作に適する
 - ・ 倒伏しにくいいため、直播栽培にも向く

生産資材

農機具費の低減

- **基本性能を絞った低価格農機**
 - ・ 海外共通設計を国内展開(標準モデル比1~3割の低価格化)
 - ・ 耐久性も向上
- **大型・小型汎用コンバイン**
 - ・ 稲・麦・大豆等の多くの作物に利用が可能なコンバイン
 - ・ 汎用利用により農機具費を3~4割低減
 - ・ 小型汎用コンバインは、公道自走が可能
- **中山間地域対応自脱型コンバイン**
 - ・ 超小型・軽量・高精度な自脱型コンバイン(従来の2条刈コンバイン比2割以上の低価格化)

肥料・農薬費の低減

- **リン酸・カリの低成分肥料**
 - ・ リン酸・カリの含有量を低めにした低コスト肥料(肥料費▲1割)
- **混合たい肥複合肥料**
 - ・ 家畜又は食品系たい肥を普通肥料と混合し、成分を安定化した低コスト肥料(肥料費▲1~3割)
- **農薬の省力製剤「豆つぶ剤」**
 - ・ 従来の粒剤より粒が大きく、水面を浮遊して均一に拡散するため、10a当たり施用量を従来の1/4に低減

施設費・燃料費の低減

- **農家用小型光選別機**
 - ・ カメムシ被害粒等を高精度に除去
 - ・ 設計の見直しや部品の量産化により、従来モデル比5割以上の低価格化
- **もみ殻燃焼型乾燥機**
 - ・ 米を乾燥するための燃料として、灯油等に代わり、もみ殻を利用(燃料費不要)

今後、担い手農家が自らの地域や経営に適した技術を選択・導入できるよう、①26年度中に技術カタログを改訂するとともに、②技術の提案者と担い手農家が意見・情報交換を行うワークショップを開催し、③担い手農家の技術導入に当たり指導・助言を行う専門員を発掘・育成する。